

けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会
分科会活動報告

平成27年6月12日
総会資料

協議会事務局

企画広報分科会

○ 分科会の構成（敬称略）

（リーダー）

松本 幸則（パナソニック 全社CTO室 技術戦略部 技術戦略課 主幹）

（サブリーダー）

村田 稔樹（沖電気工業 研究開発センター スペシャリスト）

○ 分科会の活動方針

1. 創造系活動

- ・定期的な会員への研究ニーズ調査
- ・研究ニーズに基づき、新たな産学官連携研究開発テーマを検討

2. 促進系活動

- ・各研究開発テーマ間の交流促進
- ・シンポジウムや施設見学会等イベントの企画・実施による産学官連携促進
- ・産業振興や市民生活向上の観点からのアウトプット活用方策検討などの成果活用促進

3. 整備系活動

- ・研究開発整備要望など研究活動推進

グローバルコミュニケーション準備WG

グローバルコミュニケーション計画及び多言語音声翻訳技術に関する情報の収集・意見交換や関西での多言語音声翻訳ビジネスを定着させるために必要なサービスの具体的な検討などをおこなった。WG会合を1/29、2/26、3/30に実施した。今後も検討を重ね、グローバルコミュニケーション計画にコミットしていく。

メンバーへの情報提供や相互理解のため、ウェブサイトを開設した。
(右図は表紙ページ)

The screenshot shows the homepage of the Global Communication Preparation Working Group. At the top, there is a navigation menu with links for Home, Activity Summary, Member Information, Preparation WG Meeting, Materials (Member Only), Meeting Method, and Contact Us. Below the menu is a large banner image of a modern building complex. The main content area is divided into two columns. The left column has a 'Activity Information' section with links for 'Preparation WG Meeting' and 'Meeting Method', and a 'Related Links' section with links to the 'Global Communication Preparation Working Group' and the 'Open Innovation Promotion Council (GOP)'. The right column has a 'Global Communication Preparation Working Group' section with a title and a paragraph of text, followed by a 'Latest Information & Update' section with a title and two dates: '2015.3.9' and '2015.3.8'. A 'Contact Us' link is visible in the top right corner.

グローバルコミュニケーション準備ワーキンググループ [お問い合わせ](#)

[ホーム](#) [活動概要](#) [構成員メンバー](#) [準備WG会合](#) [資料\(メンバー専用\)](#) [入会方法](#) [お問い合わせ](#)

活動情報

[準備WG会合](#)
[入会方法](#)

関連リンク

[グローバルコミュニケーション開発推進協議会\(GOP協議会\)](#)

[けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会](#)

グローバルコミュニケーション準備ワーキンググループとは

総務省が提唱する「グローバルコミュニケーション計画」において、NICTの「多言語音声翻訳技術」を活用して、関西における実証実験をめざして、関西での観光分野の多言語音声翻訳社会実装モデルをハード・ソフト両面から研究・提案する活動につなげていくことを目的とします。

このグローバルコミュニケーション準備WGは、[けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会](#)の傘下に設置された組織であり、総務省の『グローバルコミュニケーション計画』の推進に資することを目的として2014年12月17日に設立された[グローバルコミュニケーション開発推進協議会](#)とも緊密に連携しながら、多言語音声翻訳技術を活かした実証実験及び社会実装に関する情報の収集及び意見交換の場を提供します。

[詳細\(活動概要のページへ\)](#)

最新情報 & 更新情報

2015.3.9 [資料コーナー](#)を開設しました。(準備WGメンバーの方に限り閲覧が可能です。)

2015.3.8 第2回目の準備WG会合を開催しました。

新世代ネットワーク分科会

目 標

新世代ネットワークの実現に向けた課題を解決するため、各レイヤにまたがるネットワーク関連技術の研究開発を推進する。創出した日本発の技術を、国際標準に提案し、我が国の国際競争力の確保を目指す。

分科会の構成

- ・ 相互接続性検証WG 主査：山中直明（慶応義塾大）
- ・ フォトニック準備WG 主査：宮本裕（NTT）

相互接続性検証WG



● WGミーティング: 13回

● 相互接続実験: 3回

● 相互接続技術公開デモ

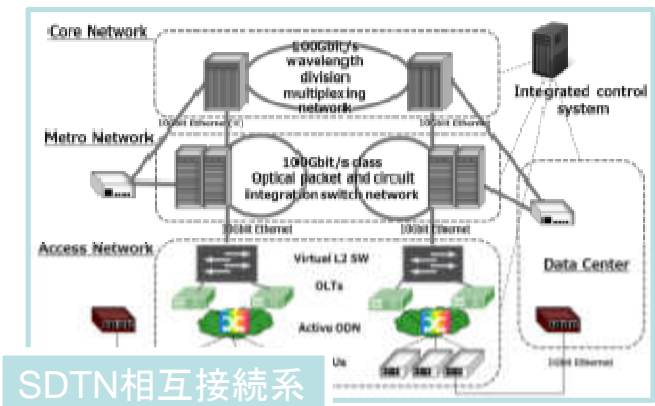
報道発表

- 100ギガビット級コア・メトロ・アクセス光ネットワークのSoftware Defined Transport Network*技術による相互接続に成功

*Software Defined Transport Network (SDTN)

OpenFlowに代表されるSDN (Software Defined Network) の概念をトランスポート層の仮想化に適用した技術

● 成果展示(出展): 4件



フォトニック準備WG

フォトニック準備WGの活動実施(案)

活動目標

我が国の情報通信基盤を支え、国際競争力を持つ先進的コア技術である「フォトニックネットワーク技術」に関する基盤的研究開発、及び技術間連携等の実証実験を継続的に推進していくための準備活動を行う。

活動体制

主 査:宮本 裕 (日本電信電話株式会社)

メンバー(予定):日本電信電話株式会社、日本電気株式会社、富士通株式会社、三菱電機株式会社、国立大学法人大阪大学、国立大学法人名古屋大学

活動スケジュール

- ・成果展示の実施(12月頃)
- ・その他、活動トピックスがあった場合、適宜活動を行う。

ユニバーサルコミュニケーション分科会

目 標

言語や文化等の壁を越え、高度に利用できる生活環境を実現するユニバーサルコミュニケーション技術の研究開発を推進し、日本発の技術を創出し、国際標準に提案し、我が国の国際競争力の確保を目指す。

分科会の構成

分科会リーダー： 萩田紀博 (ATR)

WG

- ・ ユビキタスネットワークロボットWG 主査：宮下敬宏 (ATR)
- ・ 映像コミュニケーションWG 主査：山田順一
(NTT-ATアイピーエス)
- ・ 気象レーダーWG 主査：中北英一 (京大)

ユビキタスネットワークロボットWG

○総務省委託研究及びSCOPEの実証実験(ATR)

【ネットワーク型BMI】脳情報解読に基づく移動支援機器と環境センサが連携した移動支援機器安全制御技術の開発

【保育支援技術】 保育環境下における個人同定, グループ認識、複数のロボットで子どもたちの注意制御を行う予備実験。WEBアンケートを通じて保育支援技術の社会的受容性を検証。

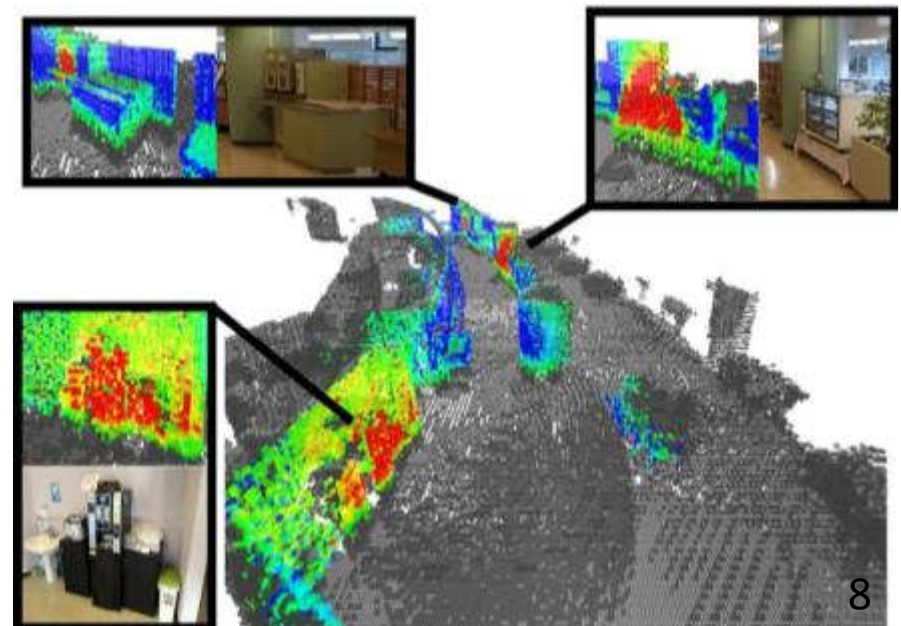
【見守り支援ロボットシステム】 転倒早期発見に関して介護現場で必要な技術調査、転倒認識技術及び転倒早期発見システムを開発。

【音環境知能技術】 複数のマイクロホンアレイとLRFの連携によって、いつ、どこで、誰が発話したのかを観測・記録可能な音環境知能の基盤技術を確立。



○積極的な情報発信を実施

国内論文3件, 海外論文4件(IEEE, Elsevier)、
研究発表15件(国内7件、海外8件)、
講演10件等



映像コミュニケーションWG

- 映像コミュニケーションWGのメンバーである(株)計測技術研究所は、2014年夏に、4K3D液晶ディスプレイの実用化に成功した（商品レベル）。
- 映像コミュニケーションWGは、けいはんな情報通信フェア2014(11月6-8日、けいはんなプラザ)において、この「4K3D液晶ディスプレイ」に、「4K3Dコンテンツ」(NICT制作)を上映し展示デモをした。
- 2015年2月27日(金)に、大阪マーチャндаイズ・マート(OMMビル2F)にて開催された展示会「ケーブルテレビテクノフェア2015」において、映像コミュニケーションWGは、「4K3D-超高精細3次元映像システム」を特別展示した(招待展示)。



気象レーダーWG

背景と目的

フェーズドアレイレーダーが大阪大学、東芝、NICTの共同により世界で初めて開発され、2012年に吹田に、2013年に神戸に設置された。このレーダーは近畿中央部における降雨域を3次元構造として、高い時間分解能でとらえることができる。今後の全国展開が期待される中、このデータの利活用、普及、また、啓発活動を通じ、近畿圏におけるゲリラ豪雨、竜巻、突風などの気象災害の軽減に貢献することを目指す。

活動体制

- ・主査 中北英一 京大教授
- ・副主査 牛尾知雄 阪大准教授

○ソーシャルデータと連携した解析も進めることも予定しており、ユニバーサルコミュニケーション分科会所属として推進することとする。

フェーズドアレイレーダーの観測範囲→

